

総合学習

「人について」 講義内容 「エイズと共に生きる」

中 村 明 彦

【抄録】「人について」の講義の中で、体育科教員が「エイズ」を取り上げ2時間の講義をした。その準備経過、授業経過、生徒の感想等をまとめた。ねらいとしては、エイズは恐ろしいということと終わるのではなく、エイズにおける人権を意識させたまとめとすることにした。

【キーワード】 エイズ、人権教育、生体防衛機能

I 経 過

保健体育科の教員である私にとって科の特色を生かした「人について」の講義を考えたとき、はじめにトレーニング方法による人のからだの変化、もしくはスポーツ障害についての講義をイメージした。資料收拾の途中、「人について」の授業がつながりがあるものにしたと考え、先行授業を参考にするため生徒と共に講義に参加した。その初回が生命の誕生を宇宙規模で広げた講義で、生命の神秘に触れた。このことにより生命の誕生を身近な視点で考えると、中学3年の生徒の体は生命を作り出すことができる。また、生命を作り出す準備が体内にできている状況で、性ホルモンの働きが活発になり異性に対する関心も高まっていると考え、科の特色を生かした講義としては、やはり性教育の分野を選択すべきと判断した。

人間が生命をつくる行為は、性交である。それは、愛し合った結果本能として自然なふるまいである。現在この人の生命を作り出す性交という行為がエイズとの関係でマスコミを中心に注目を浴びている。

生命を作り出すはすの行為が、逆に生命を脅かしている。選択授業2時間を使って、人の生命を脅かすものエイズの正しい理解と予防について行うことにした。

II ね ら い

当初、ヒテオにたよりエイズの内容を説明する予定であったが、数多くの資料にふれエイズ教育の難しさに直面した中で、君和田和一先生が書かれた「生徒指導—エイズ教育のすすめ方」を参考に授業の骨組をつくった。授業のねらいとしては、エイズは恐ろしいということと終わるのではなく、エイズにおける人権を意識させたまとめとすることにして、授業の表題も「エイズと共に生きる。」とした。

「エイズ教育のすすめ方」・・・君和田和一

◎エイズ教育の原則

1. 宣伝警告だけでなく、エイズ教育を。
2. 科学教育を中心に、性教育、人権教育の3本柱で。
3. 「お任せ教育」から、自主編成の授業で。

◎原則の内容

- (1) エイズ問題の啓蒙宣伝活動は、大切である。しかし、もっと大切なことは、児童生徒に対する科学教育・性教育・人権教育である。そのための教育内容・教材・授業計画・板書・発問・班討議の指導・Q & A・子供達の決議などを見定め準備しておかなければならない。これらの無い活動は、宣伝である。
- (2) エイズ宣伝のパンフ・ポスター・新聞・週刊誌・雑誌等の記事で、最も希薄な部分は「エイズ理解の基礎・基盤」となる、科学的知識である。この分野が、エイズ教育で一番難しいところである。ここを避けた講演や、訓話・説教は教育ではない。授業でもない。抗原・抗体・生体防御・レトロウイルス・細胞血液・リンパ球・免疫機能低下・日和見感染症等を確実に教え、理解させていくことがエイズ教育の第1歩である。これを抜きにして、パンフ読みや、ビデオ鑑賞は授業とはいえない。「おまかせ授業」
- (3) コントームの装着方法を教えたり「不特定多数とのセックス」をしないようにと説教すれば性教育をしたと思っはいけない。そのような宣伝だけでは、コントームの装着率は高まらない。性交は、極めて私的な行為であり、両性の人間関係と性意識に深く関わる、プライベートな隠された行動である。宣伝や脅し

で変えられるものではない。だから、性交と避妊とは何かを教えるだけでなく、避妊が遠慮なく語れる人間関係、避妊が実行できるような男女関係、性への理解、女性の人生が尊重できる人間関係と、男性のあり方を、教える。エイズの感染拡大は、このような「生と性」の教育無くしては、制御できないだろう。

(4) エイズにおける人権教育とは、いまや「エイズと共に生きる」時代。

PWA (Person With AIDS) で、そのような社会を「君達自身が創れるのか?」「私達の学校・クラス・地域社会で、できるのか?」の問いかけ、本音を討論させ、実践力をつけるのがエイズの人権教育である。

(月刊生徒指導1993 1月より抜粋)

Ⅲ 授業の展開

- ①エイズとは
- ②免疫の働きを理解しよう
- ③エイズウイルスが体内に侵入すると
- ④エイズウイルスに感染すると
- ⑤エイズウイルスの感染経路は
- ⑥エイズウイルスに感染しないためには
- ⑦正しい知識を持てばエイズは怖くない

以上の内容を2時間で展開する。詳しくは、文末の授業経過で報告する。

特に配慮したところは、エイズ教育の目的が「一人ひとりの子供たちが幸福な人生を送るため」におこなうのであるから、落ちこぼれなく全員に理解と納得を与えなければならないとされた点である。具体的にはエイズの正体と人間の生体防衛機能に関する点で、以下の文例を参考に展開した。

一番難しいのはリンパ球とエイズウイルス。リンパ球の種類と役割。そして侵入したエイズウイルス(RNA)とDNA(二重鎖)の関係。

警察関係者には失礼だが、次のように例証した

- ・好中球=自転車巡回する派出所の警官
- ・マクロファージ=パトカーと駐留機動隊

殺菌力はあるが、抗原が分子数5000以上となると識別できなくなる。たとえば知能犯の贈収賄事件、ハッカーコンピューター犯罪、企業脱税、佐川事件、株価操作、麻薬犯、多国籍犯罪などは特別捜査班が編成される。これに相当するのが千変万化のBリンパ球である。

その種類は一億種。抗原分子量は16万から90万。

そして特別捜査班の増減を指示するTリンパ球。これを公安委員会と呼ぶことにする。

人の体全体を監視し、闘争指示や出動命令を発するヘルパーT細胞を警視庁か府県警察本部にたどえた。すると、エイズウイルスがヘルパーT細胞に好んで侵入し増殖していく姿は、広域暴力団が県警本部に潜入する姿ようである。

そして、エイズウイルスの逆転写酵素が、警察手帳の役割を果たしていく。ニセ警官(RNA)が本部に住みつき、機動隊にからみ込んでいく。その間10年。
[君和田和一]

Ⅳ 生徒の実態

(1) 授業前のエイズに対する生徒の意識

・手をつないでも感染しない	5
・性行為によって感染する	14
・有名な人がエイズになっている	6
・良い治療法、薬がない	19
・死ぬ確率が高い	24
・感染者は外見ではわからない	2
・キスしても傷がなければうつらない	3
・うつる、感染する	19
・治らない	21
・感染者が増えている	10
・空気感染しない	2
・蚊に刺されても感染しない	2
・免疫機能が破壊される	2
・すぐに症状はでない	8
・血液、輸血で感染する	16
・普通の生活ではうつらない	9
・歯ブラシから感染する	2
・唾液ではうつらない	5
・誤解や差別が問題になっている	1
・体内の子供にうつる	1
・麻薬の注射針で感染	1
・男性同志の性行為で感染	1
・抵抗力がなくなり	
普段かからない病気にもかかってしまう	1

(2) 授業後の感想

エイズと共に生きる 感想

○エイズという病気のことを今まであまり深く考えたことがなかったけれど、この授業で考えさせられました。もし自分の友達にエイズ感染者がいたとしたら、今まで通り友達とうしてられるか正直いってわかりません。空気で感染しないとしてもやはり不安です。

この授業でエイズに感染しない方法を教わったので覚えておこうと思います。エイズについて知ることができて良かったです。

.....

○たった1回のことで、その人の人生全てが失ってしまう。でも、その「たった1回」は、本当に軽はずみなことで知識や感心がなさすぎるのが原因なのかもしれない。愛をたしかめあう方法としては、そういうことをしたくなるだろう。しかし、それが、とれだけ重要なことなのか、私たちにはよく勉強なくてはならない。たった1回のことで、エイズに感染した人は、社会的地位も生活も、ほとんどが拘束されてしまう。生活としては、安全なものということにはわかっていても、実際私たちは、そういう人をひなんしてしまう。知識があっても、身近なこととしてとらえ理解できていない。これからの私たちはそのかべを越える理解が必要である。そのためにも、正しい知識を多く身につけてはならない。

.....

○私は「エイズ」という言葉をきくだけで怖い、恐ろしいというイメージを持っていました。けれど授業をきいているとそんなことはないということになりました。性行為は軽々しくしてはいけないしナンパの野郎に言われても全く過去が分からないだからきちんとしなければならなかった。たった1回のセックスでもエイズに感染する人もいるからアリソン・カーツさんの言うように、セックスを大切に恋をしていてセックスをしたいなら自分を守るということを忘れないようにしていきたい。そんな性行為をするのはきっとまだまだ先の事だと思うけれど「エイズと共に生きる」の授業で学んだことをしっかりと頭の中に残しておきたいと思います。

好きでエイズになった人はいないし絶対に差別はしてはいけないと思った。エイズの人でもエイズでない人もみんな同じ目で見なければいけないと思いました。とってもためになりました。

.....

○先生のお話を聞いて、まず初めに思ったことは「私はエイズについて何も知らなかった」ということです。

「感染する病気」としかしらなかった私はこのまま

の状態です先生に教えていただかなかっただけで私は将来エイズになってもおかしくないくらいだっただけで思っています。だから今回エイズについて知ることができて、本当によかったと思っています。

先生が最後に言っていたことを考えると、今までの私は、「自分が死を待つことしか道がない」というような所は避けて通ろうとするでしょう。だからと言って今は避けないとまでは言い切ることはできません。正直言って「こわい」ということが頭から抜けません。たけとエイズの感染に関して少しだけでも知識を得たことを生かしていけたらいいなとは思っています。

.....

○エイズという言葉はここ何年前かに私は聞いた。ここ何年前から騒がれ出したと思う。以前は、そんなにエイズ患者は多くなかったのだろう。何故、こんなに騒がれる病気になったのだろうか。昔の注射だったら回して使っていたけど、今はきちんと消毒して使っているんだから、血液による感染は減っていると思うけど性的接触がやっぱり乱れてきているのかなあ。お金持ちのおじさんは女を買やし、お金に困っていれば売春する世の中になっているから常識ってものを忘れているんだろう。

エイズは怖い病気だけどきちんと「エイズ」が分かっている人は感染することもないので常識と正常な心を持ちたいと思う。

.....

○エイズの話、こんなに詳しく聞いたのは、初めてです。エイズの感染者と、私は、普通に、接せられるのでしょうか。私は今まで、エイズ患者には、ある程度の嫌悪感をいたっていました。がこの授業を受けてから、少し変わりました。私達だけでなく、もっと多くの人が、この病気をよく知って、そして、エイズ患者の人への差別をしない世の中になってほしいと思います。そうしたら、きっと、エイズにかかる人が少なくなって最後には、誰もいなくなるきがします。でも、やっぱり、とこにいるか分からない、エイズ患者、感染者はこわいです。それに、将来、自分の愛する人が、エイズ感染者、患者だったら、と思うと少しゾッとします。

.....

○初めてエイズに関して講義を受けました。最初、エイズというものは、こわいものだとただ単に思っただけだ。だけど、講義を受けてエイズの細かなところの知識がわかって、表面的ではなく、内面的にみて、本当はどういったところがこわいのかということがわかりました。

最初、エイズの講義を受けるとき、少々抵抗を感じ

たけれども、聞いているうちに、関心という程でもないけれども、初めの抵抗はなくなり、熱心に聞いていました。

そして、私が思ったのは、エイズにかかった人を偏見の目でみないということです。でも、実際、先生がいったように周りの誰かが患者となったら、そこで私はどうするか。頭でわかっている、その時、自分はどうかかわりません。でも、できれば自分はそういったしろい目でみる人間にはなりたくないし、みられたくもないので、正しい知識を教わったので、これから、みんなにも、自分にも、注意して、これ以上エイズ患者を増やさないようにしたいと思いました。

○エイズを治すための薬がないとは知っていたけれども、発病を遅らせる薬が現在たくさん出ていて、しかもストレスをためないようにしたり、体力をつけたり、食事のカロリーなどに気をつけりすればなを発病を遅らせることができるとは全く知りませんでした。

エイズの人たちへの偏見はとてやっではいけないことだけれど、エイズのことを知る機会のない人にはよく分からないことだと思います。だからまず知らない人に知ってもらうことが大事なことだと思います。

絶対に死から免かれない病気にかかった人の気持ちは一体どんなものなのでしょう。

選択の時間にこのようなものやっで良かったと思いました。

○私ははじめ中村先生は体育の先生だから、どんな授業をやるのかなあと思って、楽しみにしていました。その通り、たったの2時間しかない授業だったけど、楽しかったです。

前回と今回の授業で知った事は、すごくたくさんあったような気がします。特に印象に残ったのは、エイズのこわさです。感染したら、一生治らない病気で、死んでしまうことはずっと前から知っていたけど、先生の授業を聞いて、よけいにこわくなりました。エイズは簡単には感染しないと先生はおっしゃいましたが、私は心配です。

私はエイズについてあまり知識がなかったので、よく分かってよかったです。これからもエイズ患者や、感染者がふえていくと思うけど、私はエイズだからって人を差別したりするのは良くないと思うからやめなければならないなあと思いました。

「エイズと共に生きる」 第1限

板書：エイズと共に生きる

「2時間エイズについて共に学んでいこう」

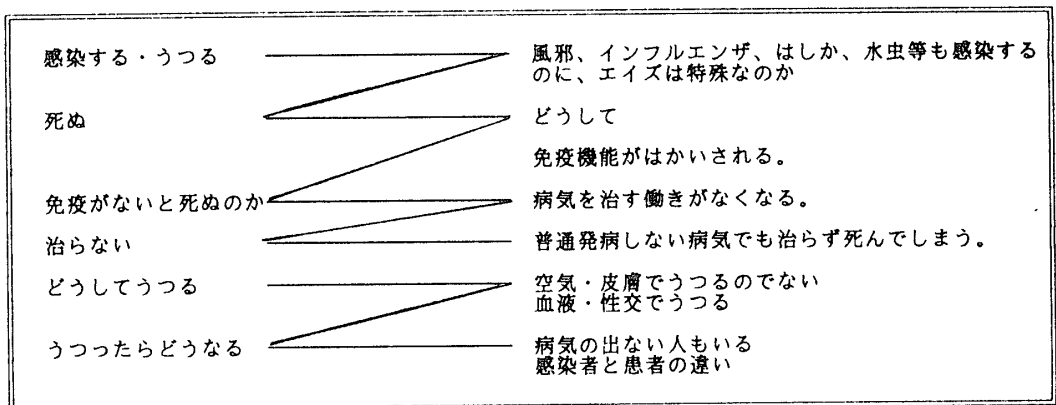
導入

現時点でのエイズに対する知識を確認する。・・・プリント配布 [エイズについて知っている事]
[エイズはなぜ世間で騒がれているか]

2つの問いに答えさせる。
各グループごとにプリントにかかれた内容を、まとめて書く。
；このクラスのエイズに対する知識の一部が、黒板に書かれた。

死ぬ・うつる・治らない・感染者がふえている・身近にいるかもしれない
薬が無い

書かれた内容もとに、生徒の思考の流れにそったZチェーン方式でエイズの概要に触れる発問と説明による導入とする。



展開

学習内容	説明
AIDS=後天性免疫不全症候群	A=Acquired = 生後 I=Immune = 病原と闘う血液の組織 D=Deficiency= 働かなくなる S=Syndrome = 色々な病気の症状があらわれる感染症
何が感染するのか？ [HIV=ヒト免疫不全ウイルス]が感染。	・インフルエンザウイルスのように感染してすぐ症状が見られる病気もあれば、逆に潜伏期間が40～50年と言われている病気もある。ウイルスの種類によって潜伏期間は異なる。 HIVも潜伏期間が長いレトロウイルスである。
これがエイズウイルス。	・解りやすい例として 「広域暴力団が県警本部に潜入する姿。 (逆転写酵素=警察手帳、RNA=ニセ警官) 警察手帳をもったニセ警官が県警本部に住みつき、重要ポストに少しずつからんでいく、その間10年。 県警本部をマヒさせて、その中で増殖し破壊、他の県へ移っていく。」
免疫機能とエイズウイルス (図1) ・免疫機能を破壊すエイズウイルス。 ・エイズウイルスは、血液の中の白血球に感染する。	・免疫機能とは、；人間の体には外界からウイルスや細菌などの病原体が侵入してきた場合に、これを見つけて攻撃し、殺したり無害にしたりする免疫力がある。その主役が白血球である
白血球について	・白血球にはいくつかの仲間があり、エイズウイルス狙うものが、リンパ球のなかの『ヘルパーT細胞』である
白血球	<ul style="list-style-type: none"> — 好中球 (外敵を食べる) ……………【自転車で巡回する派出所の警官】 — マクロファージ (外敵をより多く食べ、情報をヘルパーT細胞へ伝える) 【パトカーと駐留機動隊】 — リンパ球 <ul style="list-style-type: none"> — B細胞 (外敵の抗体をつくり、情報を記憶する) ……………【特別捜査班】 — T細胞 <ul style="list-style-type: none"> — ヘルパーT細胞 ……………【警視庁・府県警本部】 — サプレッサーT細胞 (マクロファージから外敵についての情報を得、外敵攻撃の指令を出す)
何処にエイズウイルスは存在するか？ 空気？水？	・ウイルスが感染者の体内で存在するのは、 血液、精液、腔分泌液、唾液、涙、汗
エイズウイルスは何で感染するか？	・人間が生命を作り出す行為に関係することを含めて、感染経路は3つ。 ☆性的接触：感染者との性交 ☆血液感染 ☆母子感染
2時限目へ続く	

「エイズとともに生きる」第2限

1時限のまとめ ①ウイルスによって感染する感染症である。

「エイズとは？」

「ウイルスが存在するのは(血液、精液、腔分泌液)に多量に含まれる。その他の体液には微量で、感染するほどではない。」
 「感染経路は、感染者との性的接触・母子感染・血液媒介(健康な皮膚から感染しない、傷があった場合傷口から侵入)」

②ウイルスが人間の体内に入って免疫機構を破壊する。

「血液の中の白血球(免疫に重要なリンパ球のヘルパーT細胞)を破壊する。
 「免疫って何だった?」(細菌やウイルスが体内に入ると攻撃する機能)
 「免疫機能を逆に利用したものが予防接種で、ある特定の病原体に直接攻撃を加える抗体をつくる。」

③免疫力を極端に低下させ色々な併発症を起こす。

「普通の時には、免疫力があってなんでもなかったカビや細菌、ウイルス、原虫、などがここぞとばかりに襲ってくる。」

④死んでいく病気 資料4 ; エイズの進行状況

「HIV感染者とエイズ患者の違い」

簡単にHIVはうつりません。

どんな人がHIVに感染するか。

感染する割合	性行為	0.1~1.0%
	注射	0.5~1.0%
	母子感染	30%
	血液による	90%
感染者の中での感染原因	性行為	70~80%
	注射	5~10%
	母子感染	5~10%
	血液による	3~5%

避妊が語れる人間関係

避妊が実行できる人間関係が確立しないで性交するな、性交させるな。

性交渉を持ってエイズに感染しない方法

・日常的な接触・空気・水・虫・日用品などでは感染しない。

・1981年アメリカで発見された時、同性愛者・麻薬患者だけの特別な病気だと思われ、対策が遅れ100万人もの感染者を出すことになった。

なぜ男性同性愛者が多かったか・・・?

アナルセックスが原因で、直腸自体に粘膜が薄い事と吸出しやすい事で、傷つきやすく出血を伴い、精液との接触によるものとされる。

[その人がどんな性行動をしているかで決まる。]

性交=きわめて私的、秘密、二人だけの知られざる行為

誰が感染者かわからない
 (現状は、旅行へ行って開放的になりSEXしてしまう)
 (また、レイプされるような場合。)

不特定多数の者と性的接触をもつのが、危険である。

・行きづりのその場だけの快楽関係であってはいけない。

・人生への愛を重んじること。
 ○女性の人生を守り、人生を尊重し、人生を保障する愛

・避妊法の1つコンドームは、エイズから守ってくれる。

まとめ

◎正しい知識をもてばエイズは怖くない

完全な治療法のない病気ですが、エイズに対する正しい知識をもち、その知識に基づいて行動すれば感染することはありません。むしろ怖いのは、無知が生み出す蔓延であり、偏見からくる差別である。

エイズ患者だからといって差別する心があるとエイズを隠すようになり、感染者が表にでなくなり、感染源として増大する。

例：病院もエイズ患者を拒否しているところもある。
 ・・・・他の入院患者が恐がる、寄り付かなくなるという理由。

◎君達に問いたい。

1. 隣の級友が、HIV感染者と知ったとき毎日登校できるか。
2. その友人と一緒に授業を受け、昼飯を食べれるか。
3. 担任が感染者と知って1年間付き合えるか。
4. 保健室の養護の先生がHIV感染者、PTAは仕事をさせるか。
5. 近くの食堂の家族がHIV感染者、食べに行くか。

これからの時代は「エイズとともに生きる」時代、
 「エイズと共にみんなが生きていく社会」を創るのです

参考文献

- 「エイズ・ここまでは知っておこう」
 (財)エイズ予防財団 社会保険出版社
- 「エイズに関する指導の手引」
 日本学校保健会、第1法規出版社
- 「エイズ—教職員のためのガイドブック」
 戸部和夫他 国立大学保健管理協議会
 エイズ特別委員会
- 「月刊生徒指導」学事出版 1992年6月号
 1993年1月号